

令和 2 年 5 月 26 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03441

研究課題名(和文)小中高生の英文法能力獲得に資するデータ駆動型学習の活用と普及に関する研究

研究課題名(英文)Data-Driven Learning applied to English grammar learning at elementary school, junior and senior high school

研究代表者

西垣 知佳子(Nishigaki, Chikako)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：70265354

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：コミュニケーション偏重の英語授業では、「流暢さ」に比べて「正確さ」が育ちにくい。コミュニケーション活動と組み合わせて英語の正確さ育成する手法として、データ駆動型学習(Data-driven Learning: DDL)に着目し、導入と普及を目指した。DDLは、学習者が言語データを探求しながら英語の語彙・文法力を身に付ける学習手法である。主な研究成果は、入門・初級英語学習者用「教育用コーパス」の独自開発、無料で使える小学生用と中高生用のDDL支援サイトの公開、DDL教材の開発と指導効果の検証、である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は次の点で意義深い。まず、入門・初級英語学習者のレベルに合致した著作権フリーの「教育用コーパス」を開発した。当該レベルのコーパスは世界的に見ても希少であり、独自開発のため著作権フリーで利用できる。次に、上記のコーパスを活用し、小学生用と中高生用のDDL支援サイトを開発・公開した。両サイトは無料で、登録の必要がなく、誰でも自由に利用できる。また、サイト中のDDL教材や言語データは、教師や学習者が著作権フリーで自由に加工して使える。さらに、世界的に見て、入門・初級学習者へのDDL活用が進んでいないなか、中高生のためのDDLを独自に発展させ、効果を検証し、DDL研究の基礎データを収集した。

研究成果の概要(英文)：It is often pointed out that fluency and accuracy hardly develop at a time in the foreign language classrooms with communicative language teaching. In this research, we applied DDL (data-driven learning) in English classes to enhance both students' language knowledge and skills. With DDL approach students explore numerous examples of English, notice patterns and discover language rules and learn English inductively.

The major outcomes from our research are as follows. First, we originally developed copy-right free and level-appropriate pedagogical corpora covering introductory-level and beginning-level learners. Second, we developed and released original DDL tools for elementary and secondary school students. They are easy and intuitive to use. Neither cost nor registration is required. Third, we collected data and verified the effects of our unique application of DDL to pre-tertiary classrooms. These results will help further development and application of DDL in English classrooms.

研究分野：英語教育学

キーワード：data-driven learning データ駆動型学習 帰納的学習 気づき DDL 語彙・文法学習 小学校英語 英語教育

## 1. 研究開始当初の背景

わが国の英語教育では、コミュニケーション力の育成が重視され、以前に比べ、児童・生徒の英語を使おうとする積極的態度と fluency (流暢さ) が徐々に育ってきている。その一方、「気持ちを伝えること」に重きを置き過ぎると、文法知識が育ちづらいという指摘もある。本研究を申請した当時話題となった「大学の英語授業の定番は中学の復習」(日本経済新聞 2015/7/22) という新聞記事に見られるように、英語の accuracy (正確さ) が育っていないという指摘があった。そうしたなか、本研究では、英語学習においてコミュニケーション力 (fluency) と文法力 (accuracy) を同時に育てるための方策として、データ駆動型学習 (data-driven learning : DDL) に注目した。DDL とは、コーパス (データベース) を検索し、パソコン画面に現れた多様な検索結果を観察して学ぶ学習手法である。図 1 は、DDL のコーパス検索結果の一例を示している。

図 1 では、「it is...to...」をターゲットとして、言語データを検索した検索結果がコンピュータ画面に表示されている。学習者は、検索結果を観察して、「It is + 形容詞 + to + 動詞」という文構造や語順があることを発見する。また、いわゆる形式主語の it is... の直後には、難易度 (difficult, easy, hard), 可能性 (expected, impossible, rare), 必要性 (important, necessary, vital), 好み (desirable) を表す形容詞が続くことがわかる。なお、検索ソフトを用いて、条件を指定してソートすると、ターゲット語を中心として、ターゲットの前後に現れる単語や表現を見やすく並べて観察することができる。

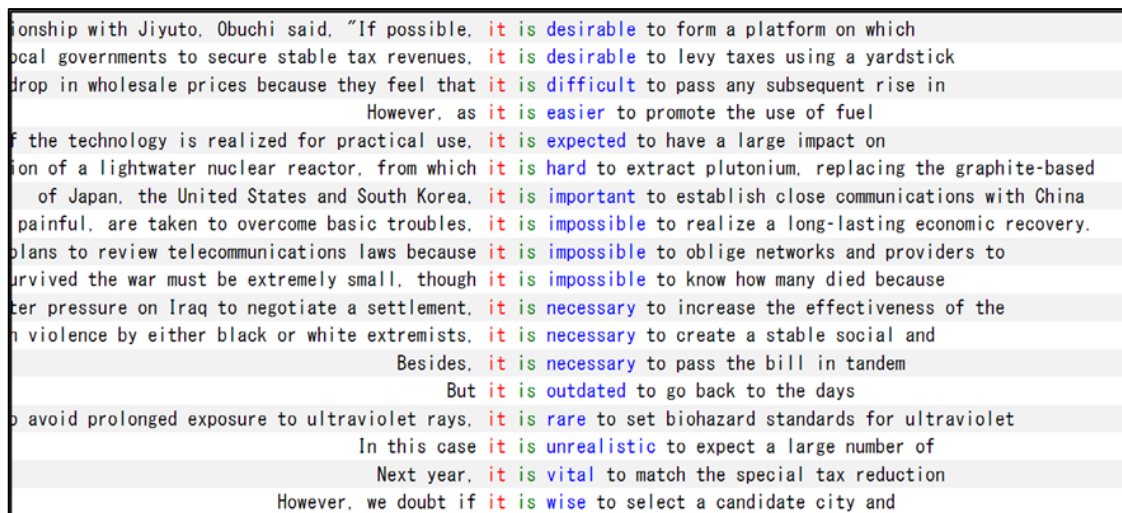


図 1 コーパス検索を行った結果の画面例

DDL に関する先行研究を調査したメタ分析の結果から、DDL は、他の指導法に比べ外国語学習に効果が高いことが確認され (Mizumoto & Chujo, 2015 ; Boulton & Cobb, 2017 ; Lee, Warchauer & Lee, 2018), 世界中でその活用が広まり、文法、コロケーション、語法、翻訳、作文等の外国語学習に適用されている。そこで、DDL の手法を日本の小中高の英語授業にも活用したいと考えた。しかしながら、図 1 の英文を見てもわかるように、元来、DDL は大学生以上の中・上級者向けの指導法であり (Johns, 1991), 世界的に見ても、大学生以前の小中高高校生への活用事例は非常に限られていた。それは、DDL を日本の小中高高校生の英語教育の現場に活用するには、次のような問題があったためである。

- (1) コーパスは DDL の心臓部とも言えるが、日本の小中高高校生の英語教育の状況に適していて、かつ、我が国の小中高高校生の英語学習者の英語力レベルに適した教育用言語データとして配慮されたコーパスが存在しない。
- (2) 小中高高校生および英語教師のニーズに対応していて、簡便に利用できる学習指導用の DDL ツールがない。
- (3) DDL は新しい手法であるため、教材が著しく不足している。また、日本人の小中高高校生を対象とした DDL の効果検証の研究も少ない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の問題点を解決し、DDL の小中高の学校現場での適用と実用化を目指すことであった。具体的な研究目的は次の 3 点であった。

### (1) 教育用コーパスの構築

小学生から高校生までの学習者の学年と英語力に適した英文用例を集積したコーパスを作成する。

## (2) DDL 学習支援サイトの開発と公開

小学生から高校生までの学習者ならびに英語教師の DDL へのニーズに応えるために、DDL 学習支援サイトを開発し、公開する。

## (3) DDL 教材の開発と効果検証

小学生から高校生までの学習者が利用できる DDL 教材を作成し、実際に指導することにより効果を検証する。併せて、日本人英語学習者に適した DDL 教材の提示と指導方法を検討する。DDL が提唱された当初は、コンコーダンスと呼ばれる専用のアプリケーションを使ってコーパスを検索し、端末の画面に表示される英文を観察していた。その後、指導者が学習者に見せたい英文用例を選定して紙に印刷し、配布して行う DDL が行われるようになった。前者は「デジタル版 DDL」、後者は「ペーパー版 DDL」と呼ばれる。DDL 実践では、学校における ICT 設備の整備状況に応じて、デジタル版 DDL とペーパー版 DDL を使い分けたり、併用したりした。

## 3. 研究の方法

前節で述べた 3 つの研究目的を達成するための研究方法を述べる。

### (1) 教育用コーパスの構築

DDL の効果の根幹は帰納的推論を導く発見学習にある。DDL 支援サイトの開発にあたっては、学習者を英語のルールやパターンの発見へと導く、学習者の英語力レベルに適した難易度の英文用例を集めた「教育用コーパスの構築」が必要であった。また、開発した DDL サイトを一般公開し、ユーザーが自由に閲覧し、利用できるようにするためには、著作権フリーの英文を集めたコーパスを搭載する必要であった。

以上の問題をクリアするために、図 2 に示す ① から ④ の順番にしたがって、教育用コーパス (図 2 ③) を構築した。

まず、①では、ソースコーパスを開発した。これは、コーパス作成者が教育用コーパスの作例作業の際に参照できるような英文を集積したデータ、すなわち DDL サイトのユーザーである小学生から高校生までの日本人学習者のレベルをカバーする様々な言語データを集めたコーパスである。

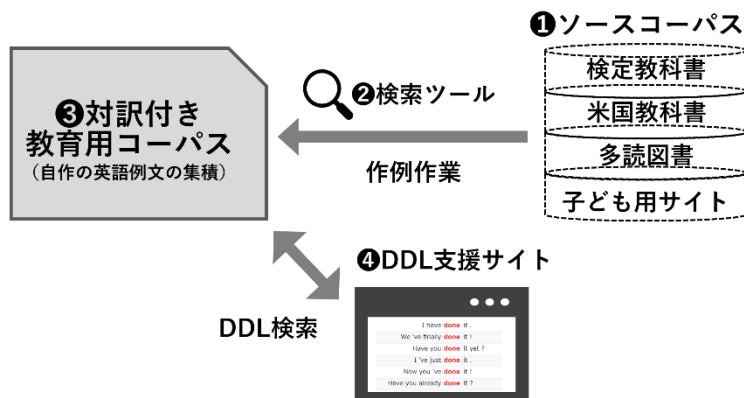


図 2 教育用コーパスの作成と DDL 支援サイト

具体的には、英語母語話者が使用する米国の教科書等、英語圏の子どもニュース、雑誌、漫画、物語、外国語として英語を学ぶ学習者のための国内・海外の英語検定教科書、読み物の難易度が調整された多読用の Graded Readers 等から言語データを収集して、トータルで 2,400 万語規模のソースコーパスを作成した。

次に②③では、学習指導のターゲットとなる文構造を含む英文を、ソースコーパスから抽出し、それを参照しながら、本物の英語の良さを活かしつつ、英語母語話者と英語教師が協力して英文用例を 1 文ずつ作例した。この際、ソースコーパスには、多様で多数の例文が集まり、参照する英文が豊富である一方、英文の数が多いために、参照したい英文用例を見つけるのが容易ではなかった。そこで、ソースコーパスを検索することに特化した専用の検索ソフトを独自に開発し、作例作業の効率を上げるようにした (図 2 ②)。さらに、DDL 学習の中で、学習者が未知の単語にわずらわされることなく、言語のルールの発見に集中できるようにするために、作例した英文用例の全てに日本語訳を付与した。その結果、本研究で開発する教育用コーパスは、日本語対訳付き教育用コーパス (図 2 ③) となっている。

### (2) DDL 学習支援サイトの開発と公開

学習者がこの対訳付き教育用コーパスを検索し、DDL ブラウザで英文用例を観察して分析できるようにするための専用のアプリケーションを搭載した DDL 学習支援サイトを開発・公開した (図 2 ④)。DDL 学習支援サイトが搭載する対訳付き教育用コーパス (図 2 ③) は、英語母語話者と日本人英語教師が協力して、英文の長さ、語彙・文法のレベル、内容やトピックなどに配慮しつつ、ソースコーパスの英文用例を参照して、1 文ずつ作成した。このことにより著作権の問題はクリアされている。

また、入門・初級学習者の場合、言語の気づきを引き出す際には、日本語と比較することで気づきが深まること、英文中に未知語があっても日本語訳が辞書の代わりとなっていること、日本語が英文全体の難易度を下げていることが、確認されていることから、本研究では、日英 2 言語併記の平行コーパスの形式を採用した。そのために、各英文にはそれぞれ日本語訳を付した

形となっている。さらに、システムの基本動作の設定は、学習者が使いやすいように、学校教師の意見を集めながら行なった。DDL 学習支援サイトの開発は、Lago 言語研究所に委託した。

### (3) DDL 教材の開発と効果検証

DDL 教材の開発と効果検証においては、学校や地域によってインターネットの使用に制約があったり、ICT 利用教育の環境が整っていない等の違いがあったりしたことから、学校現場の実態に合わせて、ペーパー版 DDL とデジタル版 DDL の両者を使い分けたり、併用したりした。

## 4. 研究成果

### 目的 (1) 教育用コーパスの作成

ソースコーパスの開発 (図 2①) では、2,400 万語規模の入門・初級レベルの英語を集積した「作例参照用のソースコーパス」を作成することができた。次にこの①ソースコーパスを検索するための専用の「ソースコーパス検索ツール」を開発した (図 2②)。この検索ツールを使うと、英文の長さ、文法項目、レマ、語句の検索条件を設定し、学習目的と学習者のレベルに適した英文用例を漏れなく検索することができる。英語教師や教材開発者は、このツールを使って目的に合った英文を検索し、それを参照しながら自作の英文を作例できるので、効率的に自主教材を作成することができる。本検索ツールによって抽出された英文は、DDL 指導や DDL アプリケーションソフトの開発に活用できる。

教育用コーパスの開発 (図 2③) には、多数の用例が必要となることから、②の検索ツールを使い、①のソースコーパスから学習ターゲットとなる文構造や語句を含む英文を検索して抽出し、その英文を参考にしながら、英語教師と英語母語話者が協力して、入門・初級用の新たな英文作例を行い、それらを集め、さらに全ての英文用例に日本語訳を付けた「対訳付き教育用コーパス」を構築した。このコーパスは、小学生から高校生までの幅広い英語力レベルに対応するものである。教育用コーパスの構築は、膨大な手間と時間がかかる作業であった。しかし、この作業を経ることで、学習者のレベルに合った、適切で、著作権フリーのコーパスを構築することができた。その結果、DDL 支援サイトは、誰でも、無料で、自由に利用できるものとなった。また、対訳付き英文用例は、教師や学習者が自由にダウンロードしたり、加工したりして使用できるようにした。このようにして作成した小中高生用の「対訳付き教育用コーパス」は、日本語対訳のある英文用例を集積し、著作権フリーで無料で自由に使用できる点で、国内外で例を見ないものである。

### 目的 (2) DDL 学習支援サイトの開発と公開

自作した対訳付き日英パラレルコーパスを搭載した小学生用と中高生用の英語学習のための DDL 学習支援サイトをそれぞれ開発し、公開した。

#### ① 小学生用 DDL 学習支援サイト (<https://e.ddl-study.org/>)

新学習指導要領の全面実施にあわせて、小学校外国語の指導に利用できる小学生用 DDL サイトを公開した。英文検索に関しては、小学生の段階では、文法用語を使うことができないことから、文法項目の検索の代わりに、「英語を使って言えるようになること」、いわゆる CAN-DO の表記を利用して一覧にして、その中から選択できるようにした。児童は、検索したい文法項目を図 3 の画面から選ぶことができる。このようにして CAN-DO を介して、児童が「言いたいこと」と、それを支える文法項目を紐づけるようにした。例えば、夏休みの思い出を相手に伝えるという場面・状況で、児童が「自分がしたこと」を伝えたいと思えば、図 3 の中の「⑤したことや終わったこと」の項目を選んでクリックする。

このようにして、自分が伝えたいこと、すなわち英語を使用する実際場面と文法項目を紐づけて検索できるようにした。すなわち、小学校では「言えるようになること」という視点で文構造に触れ、中学校ではそれを「英文法」の枠組みで学び直すことができるようになっている。

さらに、検索する英文は、図 4 の条件設定画面より、「主語の人称と単数・複数」、キーワードとなる「単語・句」、平叙文・否定文・疑問文の「文の種類」、検索結果として画面に示す「文の数」を選ぶと、図 5 のような検索結果が得られる。この画面では、英文用例を並べ替えたり、英文用例の発音を確認したりすることができる。本サイトの最新版を 2020 年 3 月にアップロードし、8 つの CAN-DO、4,364 文の用例を搭載している。



図 3 小学生用サイトの CAN-DO 一覧の画面例 図 4 小学生用サイトの条件設定の画面例

②中高校生用学習DDL支援サイト (<https://h.ddl-study.org/>)

2017年度告示の学習指導要領では、従前の学習指導要領において高校で学習していた文法事項の一部が、中学校に下りている。このように学習する文法事項の移動があることに考慮して、中学校と高校のDDL支援サイトは分けてひとつのサイトにまとめることとした。

中高校生用支援サイトでは、パターンブラウザにより、検索したい英文を文法項目から選んでクリックして検索することができる(図6)。現行では、be動詞、進行形、受動態、関係詞、仮定法等の11種類の文法項目から選定できる。例えば、動名詞を選定すると、図7のように、目的語、補語、主語としての動名詞が分かれて表示される。また、スピーカーをクリックすると、英文用例の発音が確認できる。さらに、コピー機能が付いているので、本サイトで検索した用例をコピーして印刷したり、教材を作ったりして、学習や指導に活用できる。2020年3月に最新版をアップロードし、1,227文の用例を検索できる。



図5 小学生用サイトの検索結果の画面例



図6 中高校生用パターンブラウザの画面例



図7 中高校生用サイトの検索結果の画面例

目的(3) DDL教材の開発と効果検証

入門・初級の学習者では英語力が未熟なため、言語の規則性の発見が難しい場合もあることや学校現場のICT設備の整備状況を踏まえると、英文の数を絞って提示するペーパー版は利用価値が高い。そこで、DDLの指導効果については、ペーパー版DDLとデジタル版DDLの両者の実践を行った。

実践研究を通して得られた主な結果を述べる。まず、ペーパー版DDLを活用して文法事項を学習した中学生学習者は、事前テストから事後テスト(指導1週間後)にかけて得点が統計的に有意に上昇した。その後、学習した文法事項に授業で触れることはなかったが、指導9週間後に遅延テストを実施したところ、事後テストからの得点下降は見られなかった。このことから、DDLで獲得した文法知識は2ヵ月以上経っても、定着していたことが確認された。次に、ペーパー版DDLを活用して文法を学習した中学生DDL群と、教師の説明を聞いて文法事項を学んだ中学生通常群の「未習の英文を見て文法規則を発見する力」を比較したところ、DDL群において「文法規則の発見力」がよりよく育っていた。このことから、DDLを経験した学習者においては、「自分なりの方法で、文の構造を公式化して一般化できる」力が育っていたことが確認された。

また、小学生での実践から、「日本語対訳付き教育コーパスでは、日本語対訳がない場合よりも発見の内容が深く、学習者の授業に対する満足度が高いこと」や「日本語訳を辞書のように使っていること」等が確認された。さらに、小学6年生が英語の文法規則を帰納的に学ぶ際に用いるメタ言語を収集し、「文法用語の活用」という視点から調査したところ、児童が小学校の国語科で身につけた知識を英語の学習に活用したり、適合させたりしながら、言語の規則を学んでいることが確認された。加えて、DDL教材の作成、実践を通して、国語科文法との連携が必要であることも明らかになった。例えば、英文法では「主語、動詞」と言うのに対し、国語科文法では「主語、述語」であったり、英語の「形容詞」が国語科文法では「形容詞と形容動詞」であったりする。学習者のDDLにおける文法発見の記述メモを見ると、述語と動詞、形容詞と形容動詞の混在が見られたりした。また、英語教科書では、例えば「目的語」のような語が、説明されることなく扱われている。このように、英語科の文法用語には、「形容詞」のように国語科文法と定義が異なったり、「目的語」のように国語科文法では扱われないものがあったりすることから、英語の授業での扱いには注意が必要であることもわかった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 22件）

|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 星野由子, 安部朋世, 神谷昇, 小山義徳, 石井雄隆   | 4. 巻<br>20              |
| 2. 論文標題<br>小学生のためのデータ駆動型英語学習支援サイトの開発と公開  | 5. 発行年<br>2020年         |
| 3. 雑誌名<br>『JES Journal』（小学校英語教育学会）   | 6. 最初と最後の頁<br>367-382   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-               |
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 赤瀬川史朗   | 4. 巻<br>68              |
| 2. 論文標題<br>英文作例参照用ソースコーパスの構築と用例検索ツールの開発  | 5. 発行年<br>2020年         |
| 3. 雑誌名<br>『千葉大学教育学部研究紀要』   | 6. 最初と最後の頁<br>159-164   |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>無              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-               |
| 1. 著者名<br>安部朋世, 橋本修, 西垣知佳子, 永田里美, 田中佑, 時田裕, 青木大和, 松戸伸行   | 4. 巻<br>68              |
| 2. 論文標題<br>児童・生徒の論理的的文章作成能力向上のための基礎的調査 児童・生徒作文の誤用実態と校正活動   | 5. 発行年<br>2020年         |
| 3. 雑誌名<br>『千葉大学教育学部研究紀要』   | 6. 最初と最後の頁<br>143 - 150 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>無              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-               |
| 1. 著者名<br>Pichinart Kumpawan, Chikako Nishigaki  | 4. 巻<br>1               |
| 2. 論文標題<br>Active Learning in the Communicative English Classroom Using Data-Driven Learning in Thailand | 5. 発行年<br>2020年         |
| 3. 雑誌名<br>Thailand TESOL and PAC International Conference Proceedings 2020                               | 6. 最初と最後の頁<br>予定        |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>有              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>該当する            |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>中條清美, 若松弘子, 濱田彰, 内山将夫, 赤瀬川史朗, ジョンソン・ミシェル, 西垣知佳子 | 4. 巻<br>51         |
| 2. 論文標題<br>教育用例文コーパスSCoRE第4次開発                            | 5. 発行年<br>2018年    |
| 3. 雑誌名<br>日本大学生産工学部研究報告B(文系)                              | 6. 最初と最後の頁<br>1-12 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                             | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                     | 国際共著<br>-          |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>中條清美, 若松弘子, 濱田彰, 内山将夫, 赤瀬川史朗, ジョンソン・ミシェル, 西垣知佳子 | 4. 巻<br>51          |
| 2. 論文標題<br>教育用例文コーパスSCoREを利用したDDL指導実践                     | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>日本大学生産工学部研究報告B(文系)                              | 6. 最初と最後の頁<br>13-26 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                             | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                     | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>神谷昇, 西垣知佳子, 小山義徳                                  | 4. 巻<br>50巻, 第6分冊増刊 |
| 2. 論文標題<br>[再掲] 中学校における文法項目の系統化の試み - 文法学習表の作成とDDL学習教材への適応 - | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>英語学論説資料(2016年分), 論説資料保存会                          | 6. 最初と最後の頁<br>24-27 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                               | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                      | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Chikako Nishigaki, Kiyomi Chujo and Shiro Akasegawa                      | 4. 巻<br>2018年版        |
| 2. 論文標題<br>A Japanese/English DDL Tool for Primary School CEFR Pre-A1 EFL Learners | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference 2018   | 6. 最初と最後の頁<br>345-349 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)  | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子                        | 4. 巻<br>2019年 1月号   |
| 2. 論文標題<br>「気づき」と「理解・定着」をつなぐDDL文法指導    | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>英語教育, 大修館書店                  | 6. 最初と最後の頁<br>34-35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 安部朋世, 物井尚子, 神谷昇, 小山義徳                    | 4. 巻<br>19            |
| 2. 論文標題<br>小学校における英文法と国語科文法の連携 - 文法規則発見活動で見られたメタ言語の分析から - | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>JES Journal, 小学校英語教育学会                          | 6. 最初と最後の頁<br>194-209 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                            | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                    | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 横田梓, 神谷昇, 安部朋世, 小山義徳  | 4. 巻<br>2018年度版     |
| 2. 論文標題<br>DDLが育む英語の文法規則に対する気づきの力      | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>言語学習と教育言語学: 2018 年度版         | 6. 最初と最後の頁<br>59-66 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>物井尚子, 西垣知佳子, 折原俊一, 石井雄隆            | 4. 巻<br>67巻           |
| 2. 論文標題<br>データ駆動型学習 (DDL) を活用した小学校での文法学習のあり方 | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部研究紀要                       | 6. 最初と最後の頁<br>199-206 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし               | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)       | 国際共著<br>-             |



|  |                         |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 小山義徳, 安部朋世, 横田梓, 金網文香, 蜂巢桂, 小松健一    | 4. 巻<br>平成29年度          |
| 2. 論文標題<br>コミュニケーション重視の授業に組み入れるタブレット型データ駆動型の英文法学習の試み | 5. 発行年<br>2018年         |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部 - 附属学校園連携研究成果報告書 平成29年度           | 6. 最初と最後の頁<br>pp. 69-70 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                       | 査読の有無<br>無              |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-               |

|  |                    |
|--|--------------------|
| 1. 著者名<br>神谷昇, 西垣知佳子, 安部朋世, 小山義徳, 物井尚子 | 4. 巻<br>27号        |
| 2. 論文標題<br>小中連携に資する小・中学校英語文法項目系統表作成の試み | 5. 発行年<br>2018年    |
| 3. 雑誌名<br>英語授業研究学会紀要                   | 6. 最初と最後の頁<br>3-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-          |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>中條清美, 若松弘子, 濱田彰, 内山将夫, 赤瀬川史朗, ジョンソン・ミシェル, 西垣知佳子 | 4. 巻<br>50          |
| 2. 論文標題<br>教育用例文コーパスSCoRE第三次開発とSCoReを利用したDDL文法学習          | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>日本大学生産工学部研究報告 B                                 | 6. 最初と最後の頁<br>13-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                            | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                    | 国際共著<br>-           |

|  |                        |
|--|------------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 大木純一, 小山義徳, 神谷昇, 石井雄隆, 安部朋世, 物井尚子, ホーン・ベバリー, 中條清美 | 4. 巻<br>66巻 第1号        |
| 2. 論文標題<br>小・中英語教育の接続におけるデータ駆動型の英文法指導の実践とICT活用の可能性                 | 5. 発行年<br>2017年        |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部研究紀要   | 6. 最初と最後の頁<br>211 -220 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                     | 査読の有無<br>無             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                             | 国際共著<br>-              |

|   |                      |
|---|----------------------|
| 1. 著者名<br>物井尚子, 折原俊一, Maria Marzan, Beverley Horne, 西垣知佳子, 石井雄隆 | 4. 巻<br>66巻 第1号      |
| 2. 論文標題<br>パフォーマンス・テストと連動した自己評価の可能性                             | 5. 発行年<br>2017年      |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部研究紀要  | 6. 最初と最後の頁<br>97~104 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                  | 査読の有無<br>無           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                          | 国際共著<br>-            |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 小山義徳, 安部朋世, 横田梓, 金城正樹, 金網文香         | 4. 巻<br>平成28年度      |
| 2. 論文標題<br>コミュニケーション活動を支える英文法指導 タブレット端末を活用したデータ駆動型学習 | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>平成28年度千葉大学教育学部 - 附属学校園間連携研究成果報告書           | 6. 最初と最後の頁<br>71-72 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                       | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 金網文香, 横田梓, 金城正樹           | 4. 巻<br>平成28年度      |
| 2. 論文標題<br>伝えたい意欲を高める4技能統合型の指導             | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>平成28年度千葉大学教育学部 - 附属学校園間連携研究成果報告書 | 6. 最初と最後の頁<br>69-70 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし             | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難     | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 中條清美, 赤瀬川史朗                           | 4. 巻<br>117         |
| 2. 論文標題<br>「主体的・対話的で深い学び」に資する小学校英語のためのデータ駆動型学習支援サイトの開発 | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>電子情報通信学会 信学技報                                | 6. 最初と最後の頁<br>69-74 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                 | 国際共著<br>-           |

|  |                        |
|--|------------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子                        | 4. 巻<br>66巻 第2号        |
| 2. 論文標題<br>CAN-DOと英文法指導を結び付ける教材づくりの試み  | 5. 発行年<br>2018年        |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部研究紀要                 | 6. 最初と最後の頁<br>197 -205 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-              |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>安部朋世, 神谷昇, 小山義徳, 西垣知佳子                    | 4. 巻<br>66巻 第2号     |
| 2. 論文標題<br>大学生に対する品詞の理解度調査からみた英文法学習と国語科文法学習との連携の可能性 | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部研究紀要                              | 6. 最初と最後の頁<br>59-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                      | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)              | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>中條清美, 若松弘子, キャサリン・オヒガン, マイケル・ジナング, 赤瀬川史朗, 内山将夫, ローレンス・アントニ, 西垣知佳子 | 4. 巻<br>49          |
| 2. 論文標題<br>教育用例文コーパスSCoRE第二次開発  | 5. 発行年<br>2016年     |
| 3. 雑誌名<br>日本大学生産工学部研究報告 B   | 6. 最初と最後の頁<br>19-44 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                      | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>中條清美, 水本篤, 西垣知佳子, 内堀朝子, 横田賢司, キャサリン・オヒガン | 4. 巻<br>49          |
| 2. 論文標題<br>DDL実践を評価するためのテストと質問紙の開発                 | 5. 発行年<br>2016年     |
| 3. 雑誌名<br>日本大学生産工学部研究報告 B                          | 6. 最初と最後の頁<br>45-61 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                     | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)             | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>小山義徳, 高橋憲史, 西垣知佳子, 神谷昇, 安部朋世                                       | 4. 巻<br>2016年度版     |
| 2. 論文標題<br>「データ駆動型学習 (DDL)」による英文法指導における生徒の文法規則発見力の育成 - 「生徒まとめ型」と「教師まとめ型」の比較- | 5. 発行年<br>2017年     |
| 3. 雑誌名<br>言語学習と教育言語学   | 6. 最初と最後の頁<br>11-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                       | 国際共著<br>-           |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>安部朋世, 神谷昇, 西垣知佳子, 小山義徳,       | 4. 巻<br>65            |
| 2. 論文標題<br>国語教科書と英語教科書における文法用語に関する基礎的調査 | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部研究紀要                  | 6. 最初と最後の頁<br>209-213 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>神谷昇, 西垣知佳子, 安部朋世, 小山義徳                | 4. 巻<br>65            |
| 2. 論文標題<br>英語文法項目系統表作成の試み - 名詞・形容詞・副詞・接続詞を中心に - | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部研究紀要                          | 6. 最初と最後の頁<br>355-363 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                  | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)          | 国際共著<br>-             |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>西垣知佳子, 中條清美, 神谷昇, 小山義徳, 安部朋世, 物井尚子, 横田梓 | 4. 巻<br>65            |
| 2. 論文標題<br>小・中・高の連携とデータ駆動型の英語語彙・文法学習支援ウェブサイトの構築   | 5. 発行年<br>2017年       |
| 3. 雑誌名<br>千葉大学教育学部研究紀要                            | 6. 最初と最後の頁<br>365-372 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                    | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)            | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計33件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 5件）

|                                |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 赤瀬川史朗, 石井雄隆  |
| 2. 発表標題<br>小学校生のためのD D Lサイトの開発 |
| 3. 学会等名<br>英語コーパス学会            |
| 4. 発表年<br>2019年                |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Chikako Nishigaki, Naoko Monoi, Etsuko Sato, Pichinart Kumpawan  |
| 2. 発表標題<br>Application and Effects of a Data-Driven Learning Approach and Web-Based Tool to Grammar Learning in English Classroom for Introductory-level Students |
| 3. 学会等名<br>The 17th Asia TEFL International Conference (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Pichinart Kumpawan, Chikako Nishigaki  |
| 2. 発表標題<br>A New Way to Teach Grammar in a Thai EFL Context: Data-Driven Learning for 9th Graders |
| 3. 学会等名<br>The 17th Asia TEFL International Conference (国際学会)                                     |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 物井尚子, 星野由子, 石井雄隆  |
| 2. 発表標題<br>授業の助っ人！小学校英語DDLサイトの開発と公開 |
| 3. 学会等名<br>小学校英語教育学会 (JES)          |
| 4. 発表年<br>2019年                     |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>安部朋世, 西垣知佳子, 佐藤悦子, 神谷昇, 小山義徳, 星野由子, 石井雄隆 |
| 2. 発表標題<br>語彙・文構造の学習から引き出されるメタ言語の分析                 |
| 3. 学会等名<br>小学校英語教育学会 (JES)                          |
| 4. 発表年<br>2019年                                     |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Chikako Nishigaki, Shiro Akasegawa  |
| 2. 発表標題<br>Development of a Web-Based Data-Driven Learning System Targeting Japanese Elementary School Students of English             |
| 3. 学会等名<br>FLEAT 7, Language Learning with Technology Facing to Future, International Foreign Language Education and Technology (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 中條清美, 物井尚子, 星野由子, 石井雄隆    |
| 2. 発表標題<br>小・中・高・大の連携を目指したDDL実践と支援サイトの開発・公開 |
| 3. 学会等名<br>英語授業研究学会                         |
| 4. 発表年<br>2019年                             |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Pichinart Kumpawan, Chikako Nishigaki   |
| 2. 発表標題<br>Deep Active Learning In Communicative English Classroom Using Data-Driven Language Learning |
| 3. 学会等名<br>The 40th Thailand TESOL and PAC International Conference 2020 (国際学会)                        |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 石井雄隆                            |
| 2. 発表標題<br>D D L で育む小・中学生の英語力                     |
| 3. 学会等名<br>英語コーパス学会 2 0 1 8 年度春季研究会, 東京外国語大学 (東京) |
| 4. 発表年<br>2018年                                   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 安部朋世, 物井尚子, 神谷昇, 小山義徳        |
| 2. 発表標題<br>小学校英語と国語科文法の連携の可能性と問題点              |
| 3. 学会等名<br>第18回小学校英語教育学会 (JES) 長崎大会, 長崎大学 (長崎) |
| 4. 発表年<br>2018年                                |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 石井雄隆, 物井尚子, 赤瀬川史朗, 中條清美                              |
| 2. 発表標題<br>小学校のための英語学習支援サイトの開発 - DDLの普及を目指して -                         |
| 3. 学会等名<br>外国語教育メディア学会 (LET) 第58回 (2018年度) 全国研究大会, 千里ライフサイエンスセンター (大阪) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>中條清美, 西垣知佳子, 赤瀬川史朗  |
| 2. 発表標題<br>教育用例文コーパスSCoRE第4次開発版の公開                                     |
| 3. 学会等名<br>外国語教育メディア学会 (LET) 第58回 (2018年度) 全国研究大会, 千里ライフサイエンスセンター (大阪) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Chikako Nishigaki, Kiyomi Chujo, Shiro Akasegawa                        |
| 2. 発表標題<br>A Japanese/English DDL Tool for Primary School CEFR Pre-A1 EFL Learners |
| 3. 学会等名<br>Asia-Pacific Corpus Linguistics Conference 2018 in Takamatsu (国際学会)     |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 赤瀬川史朗, 中條清美                            |
| 2. 発表標題<br>小学生のための英語DDL支援サイトの開発に向けた作例参照用コーパスの構築と検索ツールの開発 |
| 3. 学会等名<br>英語コーパス学会 第44回大会, 東京理科大学 (東京)                  |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 赤瀬川史朗, 石井雄隆   |
| 2. 発表標題<br>小学校英語のためのDDLツールの開発と活用  |
| 3. 学会等名<br>2018年度英語コーパス学会DDL(Data-Driven Learning)SIGシンポジウム, 早稲田大学早稲田キャンパス大隈講堂 (東京) |
| 4. 発表年<br>2018年   |

|                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子                  |
| 2. 発表標題<br>小学校DDLサイトの公開とDDLの理論    |
| 3. 学会等名<br>第1回研究会「言語と学びラボ」キックオフ集会 |
| 4. 発表年<br>2019年                   |



|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>物井尚子, 折原俊一, 西垣知佳子, 石井雄隆    |
| 2. 発表標題<br>データ駆動型学習を活用した小学校での英文法指導の試み |
| 3. 学会等名<br>第17回小学校英語教育学会(JES)兵庫大会     |
| 4. 発表年<br>2017年                       |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子, 横田梓, 神谷昇, 小山義徳, 安部朋世  |
| 2. 発表標題<br>データ駆動型の英文法学習が導く気づき, 定着, 発見の力 |
| 3. 学会等名<br>第43回全国英語教育学会島根研究大会           |
| 4. 発表年<br>2017年                         |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>安部朋世, 神谷昇, 小山義徳, 西垣知佳子                          |
| 2. 発表標題<br>英文法学習と国語科文法学習との連携の可能性を探る -大学生に対する品詞の理解度調査をととして- |
| 3. 学会等名<br>第43回全国英語教育学会島根研究大会                              |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子                          |
| 2. 発表標題<br>新学習指導要領開始に向けた外国語活動の指導力アップを目指して |
| 3. 学会等名<br>袖ヶ浦市立総合教育センター 英語研修会 (招待講演)     |
| 4. 発表年<br>2017年                           |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>小山義徳                                 |
| 2. 発表標題<br>21世紀型スキルを育成する 英語教育におけるデータ駆動型学習 (DDL) |
| 3. 学会等名<br>日本教育心理学会第59回大会                       |
| 4. 発表年<br>2017年                                 |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>水戸直和, 西垣知佳子   |
| 2. 発表標題<br>運用力と発見力・思考力・創造力を育む英語授業～リテラチャー・サークル, データ駆動型学習, ジャンル準拠ライティングの統合の試み～ |
| 3. 学会等名<br>第67回全国英語教育学会兼新潟県高等学校教育研究会英語部会全県英語科研究会                             |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子                                     |
| 2. 発表標題<br>思考力・判断力・表現力を育てる英語の学習指導 - CAN-DOと文法指導の結びつき |
| 3. 学会等名<br>英語教育指導法研究会 (教育情報プロジェクト) (招待講演)            |
| 4. 発表年<br>2017年                                      |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子                       |
| 2. 発表標題<br>これからの英語教育                   |
| 3. 学会等名<br>浦安市堀江中学校区連携教育における講演会 (招待講演) |
| 4. 発表年<br>2018年                        |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子                           |
| 2. 発表標題<br>思考力・判断力・表現力を育てる英語の学習指導          |
| 3. 学会等名<br>江戸川区立中学校教育研究会一斉研究日英語部会講演会（招待講演） |
| 4. 発表年<br>2018年                            |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子・物井尚子・安部朋世・神谷昇・小山義徳                |
| 2. 発表標題<br>国語科文法との連携を考慮に入れた小学生のための主体的で対話的な英文法学習の指導 |
| 3. 学会等名<br>日本英語教育学会・日本教育言語学会 第48回年次研究集会            |
| 4. 発表年<br>2018年                                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子，中條清美，赤瀬川史朗                            |
| 2. 発表標題<br>「主体的・対話的で深い学び」に資する小学校英語のためのデータ駆動型学習支援サイトの開発 |
| 3. 学会等名<br>電子情報通信学会                                    |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>田村敦，山下美峰，北林由紀子，西垣知佳子                      |
| 2. 発表標題<br>小中高の英語授業を連携させる英語教材の開発と実践 郷土について語る英語表現力の育成 |
| 3. 学会等名<br>第16回小学校英語教育学会（JES）宮城大会                    |
| 4. 発表年<br>2016年                                      |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>中條清美・西垣知佳子                         |
| 2. 発表標題<br>リメディアル教育用コーパスSCoREを使ったデータ駆動型学習の実践  |
| 3. 学会等名<br>外国語教育メディア学会(LET)第56回(2016年度)全国研究大会 |
| 4. 発表年<br>2016年                               |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>小山義徳・高橋憲史・西垣知佳子・神谷昇・安部朋世                         |
| 2. 発表標題<br>帰納的な英文法指導における文法規則発見力の育成ー「生徒まとめ型」と「教師まとめ型」の効果の比較ー |
| 3. 学会等名<br>全国英語教育学会 第42回埼玉研究大会,                             |
| 4. 発表年<br>2016年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子・中條清美・神谷昇・小山義徳・安部朋世・横田梓                                   |
| 2. 発表標題<br>データ駆動型の語彙・文法学習支援システムの構築ー小・中・高におけるコミュニケーション活動とデータ駆動型学習(DDL)の融合ー |
| 3. 学会等名<br>全国英語教育学会 第42回埼玉研究大会  |
| 4. 発表年<br>2016年   |

|                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>西垣知佳子                     |
| 2. 発表標題<br>外国語の基盤育成のための文法指導          |
| 3. 学会等名<br>「グローバル時代の母語教育」フォーラム(招待講演) |
| 4. 発表年<br>2017年                      |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>安部朋世                        |
| 2. 発表標題<br>国語教育における「メタ言語意識」と英語教育との「連携」 |
| 3. 学会等名<br>「グローバル時代の母語教育」フォーラム（招待講演）   |
| 4. 発表年<br>2017年                        |

〔図書〕 計1件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>吉田健作（編著），西垣知佳子（執筆）                                | 4. 発行年<br>2017年 |
| 2. 出版社<br>明治図書  | 5. 総ページ数<br>155 |
| 3. 書名<br>平成29年度版小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編 第3節「話すこと「やりとり」の新授業プラン」 |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                           | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)            | 備考 |
|-------|---|----------------------------------|----|
| 研究分担者 | 安部 朋世<br><br>(Abe Tomoyo)<br><br>(00341967)         | 千葉大学・教育学部・教授<br><br><br>(12501)  |    |
| 研究分担者 | 物井 尚子 (山賀尚子)<br><br>(Monoi Naoko)<br><br>(70350527) | 千葉大学・教育学部・准教授<br><br><br>(12501) |    |
| 研究分担者 | 小山 義徳<br><br>(Oyama Yoshinori)<br><br>(90546988)    | 千葉大学・教育学部・准教授<br><br><br>(12501) |    |

## 6. 研究組織（つづき）

|                   | 氏名<br>(研究者番号)                                 | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                | 備考         |
|-------------------|---|--------------------------------------|------------|
| 研究<br>分<br>担<br>者 | 中條 清美<br><br>(Chujo Kiyomi)<br><br>(50261889) | 日本大学・生産工学部・教授<br><br><br><br>(32665) | 2019年3月 退職 |